

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2010年4－6月）の 概 要

調査期間 平成22年7月1日～7月15日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率30社（回答率 100%）
内訳：建設業4社、製造業7社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 23.1$ （前期調査 $\Delta 16.0$ ）、前年同期比では $\Delta 35.7$ （前期調査 $\Delta 19.2$ ）とマイナス幅がやや拡大しています。来期業況見通しDIは、今期比で $\Delta 29.6$ （前期調査 $\Delta 57.7$ ）とマイナス幅が縮小しています。観光シーズンに入ることもあり、当地域を題材にした映画等も公開され回復を待ち望んでいます。

○全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 10.7$ （前期調査 $\Delta 44.4$ ）とマイナス幅が大きく縮小した一方、前年同期比では $\Delta 41.4$ （前期調査 $\Delta 21.4$ ）とマイナス幅が拡大しています。来期売上見通しDIは今期比で $\Delta 35.7$ （前期調査 $\Delta 29.6$ ）とマイナス幅が拡大しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

- ・今期業況DIが前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査0.0）、前年同期比では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が拡大しています。また、今期売上DIは前期比、前年同月比ともに $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 0.0$ ）とマイナス幅が大幅に拡大しています。年度末に公共事業が一段落し、受注も減少していることから全体的に低迷しています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が縮小していますが、売上見通し DI は $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と変化なしとなっています。業況は僅かに回復するものの、デフレなどマイナス要因もあり、売上の改善は見込めないと推測しています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が前期比で 16.7 （前期調査 66.7 ）、前年同期比では 16.7 （前期調査 50.0 ）とプラス幅が大きく縮小しました。また、売上 DI でも前期比で 0.0 （前期調査 16.7 ）、前年同期比でも 14.3 （前期調査 50.0 ）とプラス幅が縮小しており、今期に入って業況、売上ともに低迷してきていることが伺えます。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 33.3$ （前期調査 $\Delta 33.0$ ）とマイナス幅が僅かに縮小し、売上 DI でも今期比で $\Delta 28.6$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）と僅かながら上向くものと見ています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と増減なく低水準で推移しています。売上 DI も前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と動きなく、前年同期比は $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が大きくなっており、依然として厳しい状況が続いています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で 50.0 （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と一転プラス改善、売上 DI は今期比で 100.0 （前期調査 $\Delta 100.0$ ）と、業況の持ち直しと競争の激化の中にあって売上の増加を予測しています。

4、小売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が縮小、前年同期比では $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）とマイナス幅が拡大しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 62.5$ ）とマイナス幅が大幅に縮小、前年同期比では $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）とマイナス幅が拡大しています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が縮小しましたが、売上 DI では $\Delta 62.5$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が拡大しています。業況は若干上向くも、販売価格の低下等売上確保は困難を極めるものと懸念しています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が前期比で $\Delta 0.0$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）、前年同期比でも $\Delta 28.6$ （前期調査 $\Delta 40.0$ ）とマイナス幅が縮小しています。売上 DI は前期比で $\Delta 71.4$ （前期調査 $\Delta 85.7$ ）、前年同期比でも $\Delta 28.6$ （前期調査 $\Delta 71.4$ ）とマイナス幅は縮小しています。
- ・ 来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 14.3$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が縮小し、売上 DI は今期比で $\Delta 14.3$ （前期調査 28.6）とマイナスに転じています。観光シーズンに入り業況は回復していくと見込んでいるものの、依然として節約志向にあり、売上は伸び悩むものと予測しています。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|--|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は10.3%（前期調査38.2%）で、「機械・備品」への投資が最も高い割合となっています。 |
| 建設業 | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。 |
| 製造業 | 実施割合が14.3%で、「機械・備品」のへの投資となっています。 |
| 卸売業 | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。 |
| 小売業 | 実施割合が22.2%で、「建物」「機械・備品」が同率で並んでいます。 |
| サービス業 | 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。 |

2、来期設備投資

- 全業種 設備投資を計画している事業所の割合は22.6%（前期調査15.4%）で、「機械・備品」への投資割合が高くなっています。
- 建設業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
- 製造業 設備投資を計画している割合が42.9%で、「機械・備品」の割合が高くなっています。
- 卸売業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。
- 小売業 設備投資を計画している割合が36.4%で、「機械・備品」「車両運搬具」「付帯施設」「OA機器」がそれぞれ同率で並んでいます。
- サービス業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとしています。

経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が70.8%と、圧倒的に高い割合です。第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。
- 建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で75.0%となっています。
- 製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」と「単価の低下・上昇難」がそれぞれ33.3%と同率で並んでいます。
- 卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で100.0%となっています。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で85.7%となっています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で80.0%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。